

# 友禅染

## 体験教室



2026年

7/4

土

① 10:00-12:00

② 13:30-15:30



会場 新座市民会館 第3会議室

講師 後藤 猛

後藤友禅染色工房代表  
江戸友禅きもの文化普及会代表

1975年 松井友禅染色工房入所  
1987年 日本新人染織展/新鮮賞  
1989年 独立  
1991年 全日本新人染織展 / 大賞・文部大臣奨励賞  
1994年 シルク博展 / 入選  
2002年 IMA国際現代美術展/優秀賞  
2009年 第41回 日展 (日本美術展覧会)  
入選 (第四科 工芸美術)  
2009年 第49回 日本現代工芸美術展  
現代工芸賞受賞  
2014年 改組第一回 日展 入選  
ほか展覧会を開催など意欲的に活動をしている。

受付開始

2026年

5/23 (土)

10:00~

参加費 1,500円 (材料費・税込)

友禅染の“色挿し”を体験しよう!

持ち物 マスク、ぞうきん、

筆記用具(油性ボールペンまたはえんぴつ)、  
汚れても大丈夫な服装

定員 ①10:00-12:00

親子10組 (小学生+保護者)  
※小学5・6年生 1人参加可能

②13:30-15:30

10名 (中学生以上~大人)

※定員に達し次第受付終了

お申し込み・お問い合わせ先は、こちらから

新座市民会館 〒352-0011 新座市野火止 1-1-2 tel: 048-481-1111  
9:00~21:30 定休日/月曜日 ※祝日の場合は翌平日が休館日

主催: 新座市民会館 (指定管理者: 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)

協力: 後藤友禅染色工房

会館HP



# ～友禅技法の紹介～

- 1 — 白生地を裁断し、先ず仮絵羽（かりえば）する  
下絵 そこに紫露草の花弁から抽出した藍花（あいばな）で、  
生地直接図柄を骨抜きする
- 2 — 下絵の通りに、糯粉から作った糸目糊を細く線上に置く。  
糸目糊置き このため、糸目友禅と名称がつく。
- 3 — 糸目を置き終わった布を、柱と柱の間に長く張り、うすく  
地入れ 布糊を溶いた液を大印毛で満遍なく引いていく。  
糊を布に定着させる。
- 4 — 乾いた布の模様部分に、更に大豆の豆汁を筆で丁寧に挿し  
豆地入れ 込み、泣き（染め出し）を防止する。
- 5 — 生地を伸子（しんし）に張り、横張りを掛けて平らにして  
色挿し 溶いた染料の色を、模様の中に筆または刷毛で染めこむ
- 6 — 色を挿し終わった布を、蒸気釜で約1時間程、蒸す。  
空蒸し これで色素が布にほぼ定着する。
- 7 — 蒸しあがった模様の部分を、糸目糊と同様の「伏せ糊」で  
伏せ糊 満遍なく覆う。
- 8 — 地入れに同じ。糊を定着させる。
- 9 — 地入れ同様、布を張り、大刷毛で地色を全面に施す。  
地染め
- 10 — 空蒸し同様、釜で1時間蒸す。全体の色が定着する。  
本蒸し
- 11 — 友禅流し。昭和初期までは川で行われていたが、  
水元 現在は小型のプールに水を張り、水洗いする。
- 12 — 染め上がった作品に、線描き、金箔押し、金泥描き、  
仕上げ 金線置き等々、仕上げを施す。
- 13 — 染めの加工上で縮んだ布地を、蒸気で均一に巾出し。  
湯のし
- 14 — 加工途上でのあらゆるシミを取り除く。  
染み抜き
- 15 — お好みで豪華さを加えるための和刺繍を施す。  
刺繍
- 16 — 注文逃えに沿って本仕立て。一昼夜寝押しをして仕上がり。  
仕立て

仮絵羽：着物の反物を仮に仕立てた状態

糸目：糸のように細い

5の工程を  
体験します！



約1ヵ月後に  
作品が出来上がります★  
完成品を会館へ  
取りに来ていただきます。

後藤友禅  
染色工房

